

感染症学特論

[講義] 1年・2年 選択 30時間 2単位

《担当者名》 塚本 容子(デ) [yokot88@hoku-iryo-u.ac.jp]
濱田 淳一 [jun1hamada@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

感染症看護の基本となる微生物学・感染症学・免疫学について学習する

【学修目標】

- 1) 感染症学の基礎となる免疫学・微生物学・感染症学の基礎を習得する
- 2) 主要な感染症の診断と治療について理解する
- 3) 易感染状態にある患者の日和見感染症の病態、予防、治療について理解する
- 4) PBL (Problem Based Learning) により感染症を持つ患者の事例を検討することができる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1・2	免疫学概論	免疫学の基礎：免疫の定義、自然免疫と獲得免疫、免疫反応、液性と細胞性免疫について	濱田
3・4	微生物学概論	感染症を理解するために必要な微生物学の基礎：病原微生物の分類と特徴- ウイルス、細菌、真菌、その他	塚本
5・6	感染症学概論	感染症におけるPathogenicity, Virulence, Colonizationの概念を理解する	塚本
7・8	感染症学各論：母性・小児によく見られる感染症における病態・アセスメント・治療	1) 母子感染 2) 小児ウイルス疾患 など	塚本
9・10	感染症学各論：成人・高齢者によく見られる感染症における病態・アセスメント・治療	1) 呼吸器感染症 (肺炎・結核) 2) 尿路感染 など	網島優 (特別講師) 塚本
11	感染症学各論：性感染症の病態・アセスメント・治療	1) HIV 2) 梅毒 3) 淋病・クラミジア	塚本
12	感染症学各論：ICUで問題となる感染症	ICUで最も問題となる敗血症の治療マネジメントについて	塚本
13	感染症学各論：易感染状態にある患者の病態・日和見感染症	易感染状態にある患者の病態生理、アセスメント、治療そして予防	網島優 (特別講師) 塚本
14・15	PBLによる事例検討	感染症を持つ患者1例を取り上げ、微生物学的特徴、臨床的特徴、アセスメントのポイントそして治療についてプレゼンテーションを行う	塚本

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

試験 (40%)、レポート (30%)、プレゼンテーション (30%)

【教科書】

1. Mandell, Douglas and & Bennett 's (2016). Infectious Disease Essentials, 1ed, Elsevier
2. 平松 啓一 (監修) (2015). 標準微生物学 第13版、医学書院

【参考書】

随時提示する

【学修の準備】

事前の学習課題を課すので、講義前に準備しておくこと

【学修方法】

すべてのテーマにおいて、事前の学習課題を提示する。実際の授業では、事前の学習課題のディスカッションを中心に進めることでアクティブラーニングを推進する

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。